

声かけが鍵!

春の農作業安全

農繁期前に再確認!



今年も春の農繁期が近づいてきました。毎年農作業事故が増えるのが、農繁期の春と秋です。農林水産省では、3月1日～5月31日までを「春の農作業安全確認運動」と定めて、農業機械作業の事故防止に向けた運動を展開しています。農作業に経験値が必要な一方で、「慣れ」は禁物です。事故やケガを引き起こすリスクが潜んでいます。農作業を前に今一度、危険な所や作業環境、機械の正しい使い方などを確認しましょう。

2023年春の農作業安全確認運動 重点推進テーマ

徹底しよう! 農業機械の転落・転倒対策

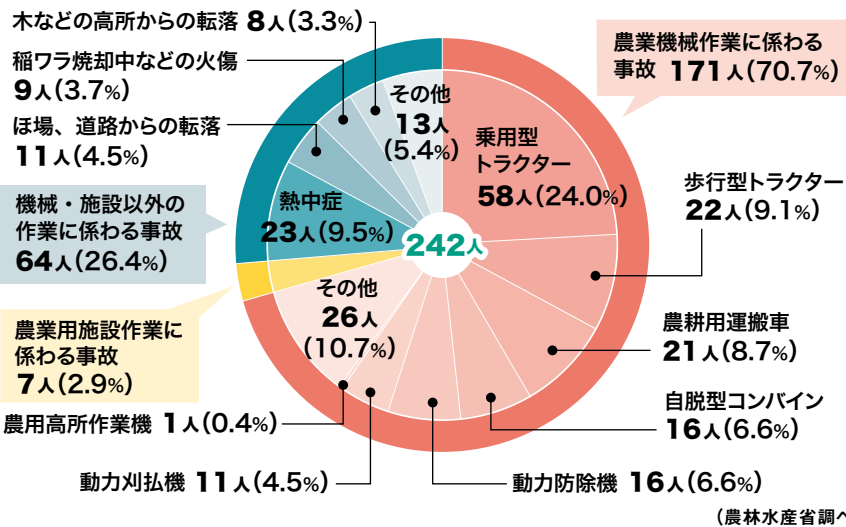
運動期間 2023年3月1日～5月31日



岡山県でも相次ぐ痛ましい事故

近年、県内でもトラクターやコンバインの転落・転倒など農業機械による痛ましい事故が相次いでいます。下記グラフの通り、全国で最も多いのが乗用型トラクターで、慣れによる事故も多発しています。

全国の要因別の死亡事故発生状況 (2021年)



農作業事故を動画で体験 危険を予測し未然防止を

JAグループは農作業事故の発生例を動画投稿サイト「YouTube」で公開しています。事故の発生場面や機械の正しい使い方を解説。当事者視点で事故を疑似体験することで安全意識を高め、事故の未然防止を啓発しています。



田植機
巻き込まれ・転落編



乗用型トラクター
転倒編



刈払機
刃との接触編

※発育期の眼への負担に配慮し、対象年齢を14歳以上としています。

その他の機械の事故体験動画はこちら

実際の事故例を学ぼう



農作業事故体験VR

農業のために 地域のために 明日のために
JA共済の地域貢献活動

声かけ

とともに リスク回避!!

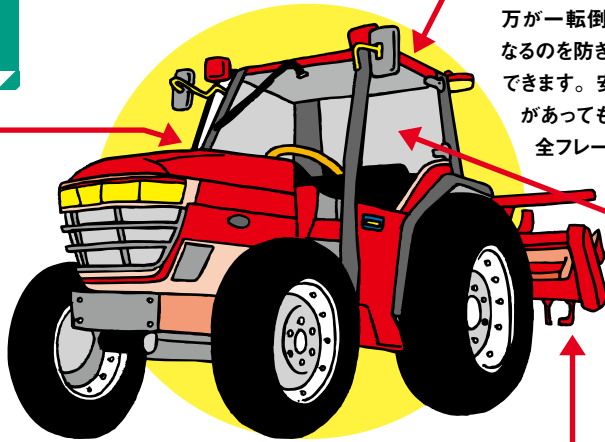


トラクター

路上走行時の 片ブレーキの禁止 倍速の設定を解除

連結・解除作業を忘れがちなブレーキペダル。連結しないまま、走行中誤って片方だけで急ブレーキを踏むと思わぬ急旋回が生じ、転落・転倒の重大死傷事故につながる場合があります。

駐停車時は必ず駐車ブレーキを かけてエンジン停止



安全フレームの装備

万が一転倒した場合などに、運転手がトラクターの荷重で下敷きになるのを防ぎ、運転者を保護するために必要な空間(安全域)を確保できます。安全フレームのない古い型のトラクターや、安全フレームがあっても諸事情により倒れて運転している例もあります。必ず安全フレームは正しい位置で使用しましょう。

ヘルメット・シートベルトの着用

機械への乗り降りの際の転落・転倒時に頭を守るなどヘルメットは欠かせません。シートベルトは公道走行時における車との追突や転落・転倒で車外に投げ出されることを回避します。着用していると死亡率は一桁台にまで下がります。

- 後ろに人がいないことを確認!!
- 坂道や傾斜地ではなるべく低い位置までロータリー(作業機)を下げる
- 傾斜地で停車する場合はロータリー(作業機)を下げる

管理機



管理機で多い事故が、後退時の足の巻き込みです。特にハウス内などの狭い場所や傾斜地では、足元がおぼつかない上に、周囲に障害物も多いことが原因で発生します。周囲をよく確認し、後退時はなるべくエンジンを切るようにします。近年は、安全装置が体に触れたり、手を離したりするとクラッチが切れるなど安全性が高い管理機が主流です。

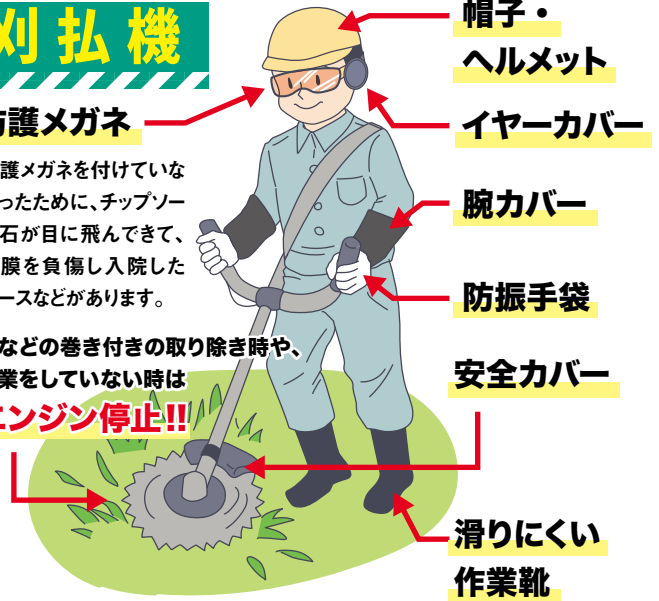
刈払機

防護メガネ

防護メガネを付けていなかったために、チップソーや石が目飞到きて、角膜を負傷し入院したケースなどがあります。

草などの巻き付きの取り除き時や、作業をしていない時は

エンジン停止!!!



帽子・ヘルメット

イヤーカーバー

腕カバー

防振手袋

安全カバー

滑りにくい作業靴

脚立



果樹のせん定や収穫時など利用頻度の高い脚立。脚立の天板に乗る、開き止め金具をつけていない、脚立を不安定な場所に置く、重い物を持って上がるなどは転倒を招く大きな要因です。複数人で声かけをしながらの作業や、ヘルメットを着用するなど安全対策をしましょう。たとえ低い位置からの落下でも人命にかかわることがあります。

どんな作業でも重要!

- ・複数人で作業する
- ・声をかけ合いながらする
- ・いつでも連絡ができるように携帯電話・スマートフォンを持つ
- ・機械を使う時は、周りに人がいないか周囲を確認する
- ・帽子の着用、水分補給など小まめな熱中症対策をする